

第9回根室市創生有識者会議議事録（平成29年9月25日開催）

1 開会（事務局・佐々木室長）

（事務局・佐々木室長）

ただいまより第9回根室市創生有識者会議を開会いたします。

本日は、今年度、第3回目の会議となりますので、早速、議事に入りたいと思います。

（長谷川市長）

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。この有識者会議は、本年度3回目、通算9回目の開催となります。

今年5月と6月の会議では、数値目標や各事業の進捗状況などを検証しつつ、介護や保育など、専門職の人材確保対策や交流人口の拡大、更には、ふるさと納税など、テーマを絞りながら議論を深め、これまでの取組みの評価を行ったところであります。

本日は、根室市創生の更なる推進のため、その評価結果を踏まえ、根室市創生総合戦略の一部改正について、皆様と議論を深めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速議事に入ってまいります。本日は、報告事項2件、確認事項と協議事項が各1件となっております。

2 報告事項（進行：長谷川市長）

（1）根室市の人口動態について〔説明：事務局・佐々木室長〕※資料4に基づき説明

- ・根室市の昨年1年間（1月～12月）の減少数は610人となりました。
- ・1月から8月末までの状況は、転入が830人と昨年より13人増、出生が123人で12人増となっておりますが、転出が1,209人と昨年より36人増、死亡は254人と12人増となっており、総体で、今年は496人減少しており、昨年より減少数が10人多い状況となっております。

〔質疑応答〕 なし

（2）根室市市民意識調査報告書について〔説明：事務局・中谷室長〕※資料1に基づき説明

（総合計画及び総合戦略策定時の指標値から今回調査で1ポイント以上上昇した指標）

- ・健康管理に努めている割合、趣味や生きがいを持っていると感じる高齢者の割合など6項目

（総合計画及び総合戦略策定時の指標値から今回1ポイント以上減少した指標）

- ・病院などの医療機関の状況に満足している割合、子育ての環境や支援に満足している保護者の割合など15項目

（アンケート結果や自由意見を抜粋して市民意識を整理）

〔基本目標1〕

- ・平成29年4月より市立根室病院で分娩が再開されたことで不満足は大幅に減少
- ・子育てや医療、教育に対する経済的支援制度の充実や、託児機能の充実は市民ニーズが高い。
- ・悪天候や冬期に子どもを遊ばせることのできる全天候型の施設に対する要望はこれまでの調査結果と同様に多くあげられており、具体的な対応が求められている状況。

[基本目標2]

- ・市民の最も大きな関心は、地域産業の活性化による雇用の確保
- ・平成28年から禁止となったロシア200海里内サケマス流し網漁の影響など根室市の経済環境に対する市民の不安が大きい状況を把握できる。

[基本目標3]

- ・潜在的には、まちづくりへの参加意識は、前回調査と同様に高い
- ・前回調査では少数であった「アンケート調査で回答した市民の意見がどのように反映されているのか疑問に感じる」という意見が多くなっている。

[質疑応答]

(石井吉春委員)

交通の問題や、子育て支援の問題は、厳しい見方をされてもしょうがないと思いますが、医療の分野に関して、ないものに対する要求が出ており、全体で言うと満足度が低い状況となっているが、ベースとしてどこを目指しているという市民の認知(理解)が全然進んでいないと感じる。市立病院を維持するために10数億の繰入をしているが、財政規模からすると精一杯やっているが、そういうことに対する市民の理解が進んでいないため、このような結果となっているのではないかと。分娩ができないなど局部的な問題は常にあるが、もっとどうにかしてほしいというニーズがあるのは事実だと思いますが、アンケートのやり方を変えるのか、市民の求めているものに対して、何が満たされていないのかをもっと分析することしていくなど、ある部分は満たされているといったこともわかるのではないかと。

救急や小児救急は大都市でも十分に満たされていないものを、この規模の自治体でどこまでやるのかということは、元々限界があるものを高望みされている状況にある。アンケート結果は厳粛に受け止める必要はあるが、実感としては厳しすぎると感じていて、フォローを行ってもらい、もっと政策で必要な部分もあるかも知れません。ただ、認知されていないと思わざるを得ない所もあるので、その部分は考えてもらう必要があります。意識は、規定条件で減少的に思われているところがあるのと、答えていない人もいますから、皆で意識調査の結果を見て、ますます根室市は住みづらいと肯定するというプロセスとなるのは、まずいのではないかと考えています。

(石井至委員)

観光の分野で、特産品などを含めた根室観光PR、特に根室のPRは早急に取り組むべきとありますが、東京の方でも、サンマやカニで有名ですが、ここに書いていることは、それを超えて取り組むべきと捉えてよろしいでしょうか。

(事務局：佐々木室長)

石井(至)委員からも東京でもサンマ・カニは有名との話がありましたが、そういったものを更に超えて取り組むといったところが目標であると思っています。

(本間委員)

アンケート調査は、継続調査でしようがないと思ったが、127頁のアンケートの設問をみると総花的に色々な項目があり、どれを選択して良いのか、わからない項目が多いと感じた。また、設問の中で、3つまで選択する項目があるが、3つまで選択してしまうと設問がぶれてしまうため、最も必要と思うものはといった設問の方が、石井(吉)委員からの話ではありませんが、今、何を求められているのかが、見えるのではないかと感じました。

もう一つは、病院を運営している方と市民の意識と繰入している方の、この三者のコミュニケーションが非常に悪い、様々な医療講座を行っているが、参加する人は一緒に、実際に毎日診療を受けている患者さんはあまりいない。啓発事業などやっていることと現実の齟齬

があって、焦点を当てるのは、そういうことに対して、どういう風にしていくべきか、市民がきちんと病院を強化し、そして、通うようにするにはどうしたら良いかを話し合っていたのか疑問に思うことがある。

市民が今何を求めているか知るためには、意識調査を必要だが、総花的ではなく、もっとポイントで何が必要なのか探っていく必要がある。市民が、本当に何が欲しくて、何が根本的な問題で、その問題に対して、市民がどう関わっていくのが重要だと思います。

分娩にしてもそうですが、この診療科目を維持するには、これだけの経費がかかるということを、市民に知らせていない。市民が望んでいたことを叶えるために、これだけ経費が必要となるといったことも、しっかりとアナウンスしていかないと、本当に何が起きているのか、赤字の補填もそうですが、それらに対して説明責任が果たされていないと感じていますので、しっかりと公表して、市民の反応を見るといったキャッチボールが必要でないか。

(伊藤委員)

情報発信のやり方や、コンテンツに問題あるのかと思いました。

ふるさと納税は、根室市でこんなに集まっているという形であれば、東京の方が根室市を注目してくれているから、集まっているという事象だけで見ると、まだまだ足りない、ちょっと卑屈になりすぎではないか。しっかりできていることが、一番近くにいる人が見えていないことがあるのではないか。議会で行われていることが、どれだけの人がそれを理解しているのか。広報紙もそうですが、多くの方に理解してもらわないと、本当のことが見えて来なかったりすると思いますし、こういった意識調査でも理解しないで、あれが欲しい、これが欲しいと言ってしまうことになり、あれば良いといった話になってしまうと思います。

(宇井委員)

今までの議論で、予算の部分も含めて、苦勞されて経産婦さんの分娩が再開されたことと初産に行くまでには、様々な課題があることが理解しています。また、この10年間の間に、5名いた助産師が定年などで少なくなるなど、厳しい状況になっており、実情を含めて知ってもらうことも大切ですが、人口減少、少子化を改善するには、初産の受入まで努力していただきたいと思います。市民意識調査の結果が厳しいのではないかと話がありましたが、確かに努力していることが市民に伝わっていないことと、特に子育てや医療に関しては、2時間かけて釧路へ行かなければならないということで、シビアにアンケートに回答してしまうと思います。ただ、取り組んでいることは積極的にアピールしていただき、市民ももっと議会だよりなども出ているので勉強は必要だと思いますが、子育てや医療など肌で感じる部分は、このようなアンケート結果に表れるのではないのでしょうか。

(石井至委員)

東京でも、病院に行くとなりがかりとなってしまう。東京でもそういった状況なので、どこに行っても同じような状況だと思います。そういったことを知らないから不満が出てくるのであって、他の市町村の状況などと比較し、根室のデータを出すと、根室はまだ恵まれていると思いますので、それを知っていただくことが必要だと思います。

民間企業の感覚では、民間病院も含めて、カバーできれば問題ない話であり、市立病院と民間病院が業務提携するなど、分担してカバーすることもそうですが、民間病院へ補助金を出すことも考える必要があるのではないか。

このアンケート自体は、第1歩としては必要だと思いますが、例えば、病院問題を解決するのであれば、もっと、細かく聞き取りを行い、不安や意見などを解消する具体的な対策を打つ事ができれば、解決できるのではないか。

(石井吉春委員)

不満は思っている人は意見を言うもので、思っていない人は言わない。このアンケートも問題意識を持っていない人は答えていなくて、問題意識を持っている人が答えているもので、アンケートを行うと一般的にこのような傾向が見られるため、根室市民の満足度は、もう少し高いと思っている。満足度が低すぎることに問題がないとは思っていないが、ある程度まで充足されていることに対する理解があれば、一定の満足度があると思います。

個別の問題がないことは違う話であり、せっかく満足度調査を行って、全然満足していない市民が多いという結果を毎年出し続けて、市民がそれを見て、やっぱりそうだなと思ってしまうというようなサイクルを循環してしまうことが、地方創生を考えるときには、一番まずいステップとなるので、それを変えないと市民の意識は変わらないから、ここに住もうと思わなくなってしまうことが気になっている。

継続性を捨てても、もっと答えやすいことを書いてもらえるアンケートにすることが必要でないか。そうしなければ、何のためにアンケートをやっているのかということになっていきます。ちゃんと満足できることはあるけど、問題はありますよといったバランスが必要で、市のやっていることは全部が正しいとは思いませんが、一つ一つの結果を見るとこんなに悪いのかと感じてしまい、少なくとも住んでいる方がベースとなるので、本当は良い所はあるという答えを引き出すことが出来てないのではないかと感じており、そこを上手く引き出して、市民の方には良い所はあるという気持ちになってもらわないと、地方創生自体が上手く進まないの、アンケートについては何とかしなければならぬと考えてもらう必要があると思います。

3 確認事項（進行：長谷川市長）

(1) 根室市創生総合戦略の効果検証について [説明：事務局・佐々木室長]

※資料2に基づき説明

・今年5月と6月に検証していただいた結果を効果検証調書としてまとめたものです。

【基本目標1】

(評価) B 概ね順調に進んでいる

(付帯意見)

保育・医療環境の充実を図るため人材確保に努めるとともに、各種制度や取組内容等について、積極的な市民周知を実施すること。

(意見等)

- ・保育士等の人材不足の解消に向けた取組みの必要性
- ・子育て環境の充実を図る専門職配置の必要性
- ・支援を必要とする子どもに対する支援体制の構築等の必要性
- ・市民満足度を高める取組みの必要性
- ・市民が市の取組みへの理解度を深める多面的な情報発信の必要性
- ・若い世代の定着に向けた事業等の見直しの必要性

【基本目標2】

(評価) C やや遅れている
(付帯意見)

産業・雇用分野、交流人口などそれぞれポイントを絞って強化すべきところを強化すること。

(意見等)

- ・各種事業のPR不足の改善に向けた多面的な周知方法の必要性
- ・多様な人材確保の促進と生産性の向上を図る取組みの必要性
- ・正規雇用を生み出す新たな取組みの必要性
- ・ファミトリップの積極的な活用などグローバル観光の推進に向けた観光客のニーズ把握やガイド育成の必要性

【基本目標3】

(評価) C やや遅れている
(付帯意見)

ふるさと納税をきっかけとした諸課題の解決など戦略的な取組みと、地域おこし協力隊の活用など市民協働を働きかける取組みを検討すること。

(意見等)

- ・ふるさと納税の活用にあたり寄附者の期待に応えられる使い方の必要性
- ・返礼品に根室ツアーの検討などふるさと納税を軸とした戦略的なメニューの必要性
- ・市民協働において地域おこし協力隊や出前講座等を活用した地域活性化への取組みの必要性
- ・子どもたちがまちづくりへ参画できる取組みの必要性

[質疑応答] なし

※効果検証調書を承認・決定**4 協議事項 (進行：長谷川市長)****(1) 根室市創生総合戦略の一部改正について [説明：事務局・佐々木室長]****※資料3に基づき説明**

- ・今年の5月と6月の有識者会議での意見や市民意識調査結果などを踏まえて、中間年次ということで根室市創生総合戦略の改正や項目の追加などを行ったところであります。

【基本目標1】

頁	追加事項	内容等
13	具体的な事業欄の「多子世帯保育料無料化事業(保育所)」の対象児童を拡大する。	平成29年度より北海道が実施する「3歳未満の第2子目以降の保育料無料化」に併せ、根室市でも同様の措置を講じるもの。
14	本文に幼稚園教諭や保育士の人材確保を図ることを追加するとともに、具体的な事業に「幼稚園教諭等修学資金貸付事業」と「幼稚園教諭等人材確保対策事業」を追加する。	待機児童を発生させないため、有資格者の人材確保対策を講じるとともに、有資格者の負担軽減を図るため子育て支援員の養成を図るもの。なお、本事業については、基本目標2の数値目標「20歳～39歳女性の人口の減少抑制」にも寄与するもの。

頁	追加事項	内容等
15	具体的な事業に「幼稚園教諭等修学資金貸付事業(再掲)」を追加する。	留守家庭児童会・放課後教室の指導員確保対策として再掲するもの。

[質疑応答] なし

※基本目標1の改正案を承認・決定

【基本目標2】

頁	追加事項	内容等
19	具体的な事業に「介護資格取得助成事業」を追加する。	介護事業所における労働力確保が喫緊の課題となっていることから、性別や年齢にかかわらず人材確保対策を講じるもの。
21	具体的な事業欄の「新規就農者確保対策事業」の支援内容を充実する。	新規就農した場合の資金助成に加え、農用地等のリース料や固定資産税相当額を支援する。
23	重要業績評価指標のうち「長期滞在者の滞在日数」の目標値を修正する。	当初設定した目標値を大幅に超えているため上方修正するもの。 ・長期滞在者の滞在日数 (旧) 5年で年間延べ1,000日間とし年間770日間増加 (新)5年で年間延べ2,000日間とし年間1,770日間増加
23	具体的な事業に「幼稚園教諭等修学資金貸付事業(再掲)」を追加する。	根室市への移住促進対策として再掲するもの。
24	具体的な事業に「観光戦略推進事業」を追加する。	交流人口の更なる増加を図るため、今後の方向性などを定めた「観光振興計画」を策定するとともに、プロモーション動画を制作するなど、地域の魅力を国内外に発信する。

[質疑応答]

(伊藤委員)

(ア) 経済・雇用対策の推進

⑤産学官金の連携及び農商工連携と6次産業化の促進について

近年、さんま、サケ、イカなどが取れない状況が続いており、平成22年にさんまが取れないということで信金において対策資金の創設を行ったが、当時はさんまの不漁が一時的なものと考えていたが、これからもっと漁獲量が少なくなった場合などに備えるなどの対策が必要との協議があり、対策資金の創設だけで良いのだろうか、原料の確保、未利用資源の活用など、今まで出来なかったこと、やってこなかったことを、今からやらなければならないということで、「水産資源環境変化対策支援プログラム」を創設したところです。実際問題として、加工業者や運輸関係は、原料が取れないと始まらないので、原料が取れない場合はどうするのか、もしくは付加価値を付けて外に売り込むことも一つですが、取れない中で将来どうするのかということを考えていくことが必要で、地域全体の投資など、攻めの手伝いをさせてもらいたいが、信金だけではできないので、市や大学といった研究機関などと連携し、環境変化に立ち向かうような政策の実現を考えていますので、この根室市創生総合戦略の具体的な事業へ加えていただきたい。

(事務局：金田総合政策部長)

伊藤委員より提案のありました「水産資源環境変化対策支援プログラム」を総合戦略事業として位置づけることはもちろん、市としても関心がありますので、金融機関の支援に加え、プラスアルファの部分を行政が担うなどのこと考えながら協議をさせていただきたいと思えます。

⇒事業の追加について委員了承

(石井吉春委員)

観光振興計画について教えてもらいたい。

(事務局：佐々木少子化対策推進室長)

現在、民間事業者に委託して、観光客のニーズ把握などの統計資料を作成しており、今後の取り組みの必要性などについて計画していくものと考えております。

※基本目標2の改正案及び事業の追加について承認・決定

【基本目標3】

頁	追加事項	内容等
27	施策の基本的方向として、②官民協働による地方創生の推進を追加	従前の施策の基本的方向②地方創生の計画的な推進と財政運営のうち、民間企業等からの職員の受入に関する事項を別項目としたもの。
28	施策として(ウ)地方創生の計画的な推進を追加 ・K P I の修正、追加	ふるさと納税制度を核とした地方創生の推進を項目立てしたもの。 [K P I の修正] ・ふるさと納税制度を活用した寄附受納額 (旧) 5年で総額 10 億円増加 (新) 5年で総額 <u>100 億円</u> 増加 ・ふるさと寄附受納額のうち、総合戦略に掲げた事業の推進に活用した寄附金額 (旧) 5年で総額 10 億円 (新) 5年で総額 <u>60 億円</u> [K P I の追加] ・ <u>ふるさと納税推進による経済波及効果</u> <u>5年で総額 130 億円</u> ・ <u>ふるさと納税推進による雇用者誘発人数</u> <u>5年で延べ 400 人</u> [具体的な事業の追加] ・ガバメントクラウドファンディング事業 ・「(仮称) 一般社団法人根室市まちづくり推進機構」設立構想プロジェクト ・(仮称) 少子化対策推進基金の設置 ・(仮称) 地域医療安定化基金の設置 ・(仮称) 地域公共交通維持安定化基金の設置 ・(仮称) 交流人口拡大促進基金の設置 ・(仮称) 医療・福祉・幼児教育人材確保対策基金の設置

[質疑応答]

(石井吉春委員)

ガバメントクラウドファンディング事業で、JR花咲線の維持確保対策となっていますが、広域の事業展開を模索し、検討してもらいたい。ふるさと納税でこれだけの寄附金が集まっています、もちろん根室の知名度で集まっているのであって、それをクラウドファンディングにおいても上手に生かして、どのように寄附金を集めるのかということは工夫していただくと集まる可能性が高いと思いますので、積極的に取り組んでいただき、むしろ広域で取り組むほうが、インパクトがあるのではないのでしょうか。

人材確保対策基金ですが、色々なところで保育や介護人材の確保に苦勞しており、給料自体は、公定価格で上げられない状況があるので、住宅において何らかの手立てをして安く提供することが人材確保に繋がっている自治体もありますので、基金をどのように使うといった点でそういったことを考えていただくと、具体的にリアクションのある施策になっていくのではないのでしょうか。

(本間委員)

前回の会議で、ふるさと納税でどう活用するかと考えると、今回の事業追加となったことも良いと思いますが、まず、ふるさと納税をしていただいた方が返礼品を食べ、もう一度ふるさと納税をしていただくという繰り返しの効果があると思います。その繰り返しがあつた中で、色々な案内をする、例えば、交流人口の観点で言うと、根室に来るとこういった楽しみがありますといったことを伝えていく、そして、クーポンを付けるなどお得感を出す事で交流人口がおのずと増えていく、また、一回訪れた人が季節毎に来ることで、また、違う魅力を感じることができるなど、このふるさと納税を利活用することによって、寄附金額を増やしながら、他の事業への波及効果を導いていくような戦略的な取り組みが少ないと感じている。ここをふるさと納税で一点突破するのであれば、交流人口のところにターゲットにあつたメニューを掲げるなど、上手に広げながら、大きくしていき、根室市の人口を増やしていくような戦略が必要だと思いますので、検討していただきたい。

例えば、JRとの関係であれば、釧路空港に降りてJRに乗ってもらうことで、サファリパークのような景色が開けるので、ここでは人が主体なのか、鹿が主体となって生活しているのか、また、この鹿がどのように生かされているのかを考え、食べてもらうことで、レストランを開店しようとする人がいるかも知れないので、そういった波及効果を考えた取り組みが必要ではないのでしょうか。

ふるさと納税を上手に活用すれば、人口を増やすことができるのではないかと感じていて、それは、住みやすさ、お金儲けでない生き方に対する憧れなどで移住してきている人が最近いるので、そういった人の生活ぶりを紹介するなど、色々な施策にふるさと納税の波及効果を作っていくことが必要だと思います。

(石井至委員)

私は、本間委員が言われるよりも実際は上手くいっていると思います。それが良い循環になっていて、根室は返礼品が充実しているとかクチコミで集まってきて、全国的にもランキングが上位になっている。今後は、寄附者向けに東京でイベントを行うなど、本間委員が言われているステップバイステップの取り組みを進めていると感じています。そのイベントに参加した方は、今後、根室に行ってみようと思えると思います。

また、全日空は協力してくれると言っていますので、航空券をふるさと納税の返礼品に加えることで、サンマやカニを食べに行こうと、航空券を返礼品として選んでくれることに繋がっていくのではないのでしょうか。

観光についての処方箋はいくらでもあり、お金があつて、やる気があれば観光客はあつという間に増えますので、それほど心配はいらないと思います。

ふるさと納税で多くの寄附金があつて、そして、ターゲットを定めて基金を作るなど戦略的に取り組んでいて、根室市は頑張っているということを全国に発信することができれば素晴らしいことだと思います。

(川前委員)

高校生に地域を知るような活動をしてもらいながら、大人が見る意識から子どもたちがどのように思っているかといったところから街づくりを考えるような施策があるといいのではないのでしょうか。子どもたちは根室が大好きといった気持ちを持っているので、その思いを生かすような街づくりに繋げるような基金の活用期待できると感じています。

人材確保対策基金では、光洋町の教員住宅がありますが、これまでオール電化の住宅で育っている人が、あの住宅に入りたいと思うのでしょうか。そういった環境が少しでも良くなると、あそこに行ってみようといった先生もいると思いますので、次、どこに異動しようと考えたときに住宅整備が充実しているほうが、先生が来てくれたりすることがありますので、人を呼ぶというところと、人を受入れる側の環境整備も一緒に考えていただきたい。先生方も色々な地域で生活していますので、根室という街を知ってもらう機会を少し作っていただきながら、異動した先生や子どもたちが根室に帰ってきて、今度は応援団となるような、また、戻ってきて住み続けられる街づくりに中長期的に取り組んでいただきたい。

(平賀委員)

意識調査を子育てに関する記述を見ると、託児機能の充実であったり、病児保育、一時保育の拡大と出ており、幼稚園や保育所は子どもを預かっていますが、熱が出た場合に、親が働いている、働いていないに関わらず、子どもを迎えに来てもらっているが、今は共働き世帯が増えていて、根室に両親がいない方が多く、すごく困っていると聞いており、病児保育などは需要がそれほどないかも知れませんが、確実に困っている方もいることも念頭に置いて、取り組んでいただきたい。一時預かりはまつもと保育所で行っていると思いますが、急に熱を出してしまった場合など緊急なときに3日前に申請をして手続きや面談が必要となり、本当に預けたくても預ける事ができないこともあり、今の一時預かりで満たされている方もいると思いますが、そうでない方もたくさんいると思いますので、ここで一時預かり事業についても公的機関で出来る事はないのか検討していただきたい。

また、60歳以上の方でも、お手伝いできることはあるのではないかという意見もありましたので、子育て支援と、そういった方の時間的なボランティアでも良いので、そういったことも含めて、考えていただきたい。

(宇井委員)

平賀委員が言っておりました一時預かり事業は、そのとおりで3日前までに申込みが必要で緊急のとき対応ができないのが現実となっていますので、その充実を検討していただきたい。

少子化対策推進基金で、特別支援も充実させていただきたい。義務教育における特別支援学級の人数は、文科省の設置基準で8人と定められていますが、色々な障がいを持ったお子さんがいる中で、養護学校のようにワンツーマン体制にプラス加配とならない現状の中で、色々な重度のお子さんや重複障がいのお子さんを一人の担任が4～5名を見ることとなり、8名以内だから問題ないといったことではなく、支援を必要とするおさんは増えてきますので、支援員の配置や肢体不自由のおさんが在籍できる肢体不自由学級の設置など、色々な部分で根室市独自の支援策を充実させていただきたい。

(廣田委員)

せっかくアンケート調査を実施しているが、回収率が低いと感じる。最低でも50%の回収できるような、なぜ、29.1%の回収率となっているのか、今後もアンケート調査を行っていくと思うが、そのへんの具体的な取り組み、私としては、回答していない70%近くの方の意見を聞いてみたいと考えています。回収率を上げるためにどうしたら良いか、検討し、上げるための取り組みを行ってほしい。

(事務局：佐々木少子化対策推進室長)

市としましては、様々なアンケート調査を実施しておりますが、ほとんどが30数%ぐらいの回収率となっておりますが、できる限り回答率を高めたいと考えております。

(廣田委員)

平均的な回収率を考えず、もっと有効に結果を出すためにどうするのか、どうすれば良いかを真剣に考えて取り組んでもらいたい。

(石井吉春委員)

質問を簡単にするのと、対象者をどう囲い込むのかといったところで工夫することが必要で、母集団の偏差を気にするよりは、ある程度、各層に意見を聞いたといったように実際にちゃんと意見を聞いている方が良いのではないかと。どこにこだわるのかというところで統計的な美しさでなく、アンケート全体でここまでの答えるを求めると書きたくなくなってしまうので、もっと簡易なものにしないと回収率は良くなりませんから、一般的な意向調査をもっと書きやすく、良い事も悪い事も並べてちゃんと聞いて、深めるのはもっと絞り込んで必要であれば別のやり方で、フォローすれば問題ないことで、いずれにしてもずっと継続していたからといったものであれば、一度捨ててしまい、新しいベースを作って、もっと根室が良いところだといったところをスタートラインにしないと意味がないと思います。

(石井至委員)

アンケートは紙ではなく、ネットなどの時代なので、ネットで行うことも検討してみてもどうでしょうか。

(長谷川市長)

根室市創生総合戦略の一部改訂案について、事務局より説明しましたが、了承いただけますか。

※基本目標3の改正案を承認・決定

(長谷川市長)

本日の議事は以上で終了しました。これで本年度予定する会議は終了いたしますが、総合戦略に基づいた事業を着実に推進するため、今後も引き続き、委員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。本日は、ありがとうございました。

(了)